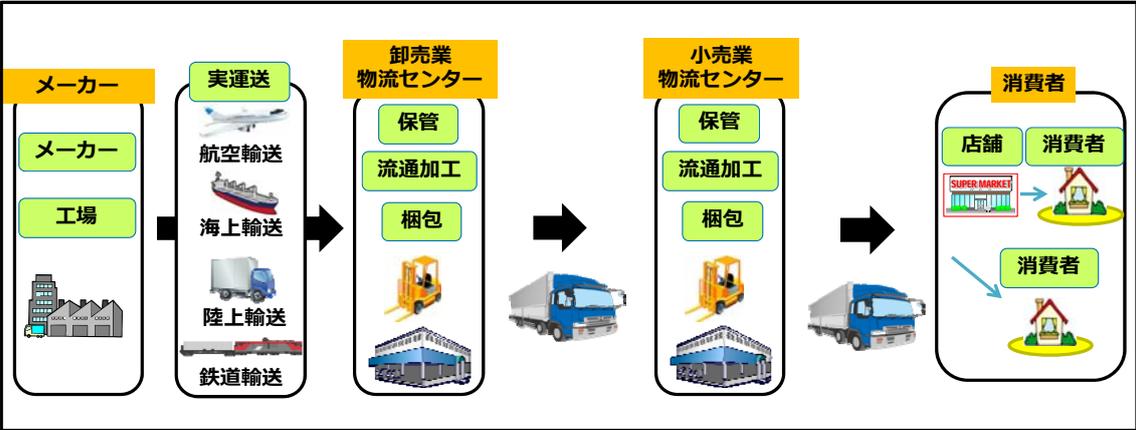


サプライチェーンを構成する物流体系

荷主と物流事業者が連携したBCPの策定を促進するにあたり、基本的な物流体系を把握するため、メーカー、卸売業、小売業及びコンビニの物流体系について示す。

商品が生産され、消費者の元に届くまでの基本的な流れを簡略化したものが以下の図である。各事業者においては、物流体系において自社が関わる物流の範囲を認識した上で、本ガイドラインを活用し、連携した対策を講じられたい。



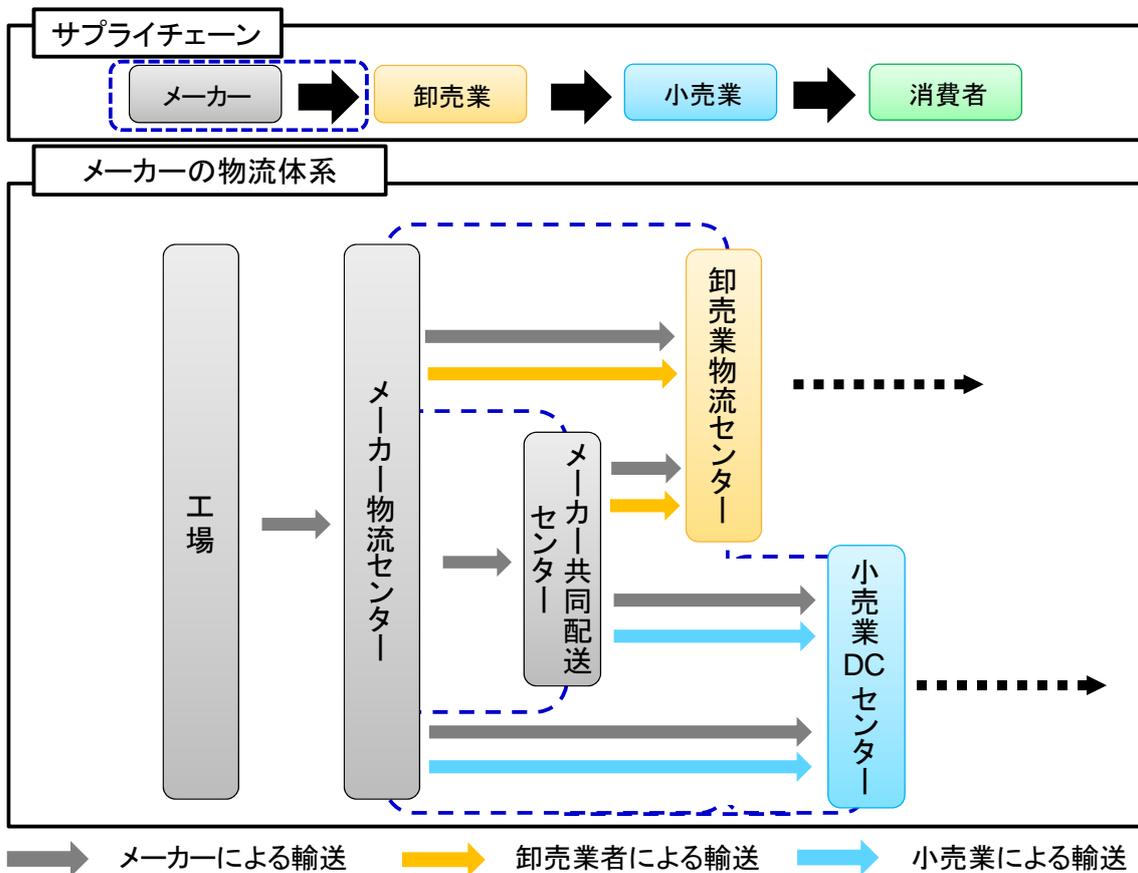
### (1) メーカーの物流体系

メーカーの物流センターは工場で生産された商品を保管し、必要に応じて卸売業の物流センターに供給する役割がある。メーカーの物流センターからは卸売業の物流センター、メーカー共同配送センター、小売業DCセンターのいずれかに配送される。従来、メーカーの物流センターに集められた商品は、単純に卸売業の物流センターに配送されていたが、小売業の物流センターが在庫を保管できるDCセンターを構えるケースが多くなってからは、物流体系も複雑なものとなってきた。小売業の物流センターは最小の在庫のみ確保する形となっているため、輸送形態も多頻度小口輸送が増加している。

メーカーの物流センター：工場で生産された商品を卸売業の物流センターや小売業のDCセンターに輸送する前に一時的に保管するための物流センター。

メーカー共同配送センター：同一の卸売業者や小売業者に異なるメーカーが配送する際に、輸送の効率化を図るため、共同輸送を行うセンター。

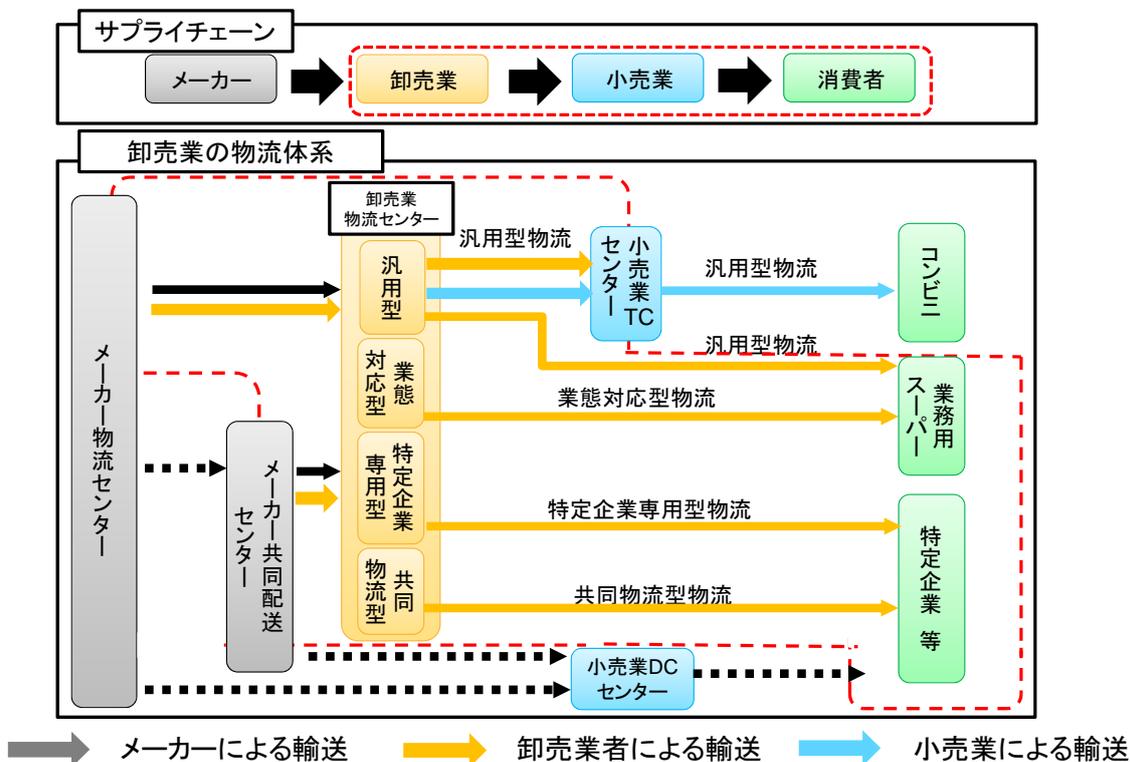
小売業DCセンター：Distribution Center。物流センター内に一定量の在庫が確保されているセンター。



## (2) 卸売業の物流体系

卸売業はメーカーから商品を仕入れ、保管し、必要に応じて小売業TCセンターや店舗に直送する役割がある。卸売業の物流センターには①汎用型物流センター、②業態対応型物流センター、③特定企業専用型物流センター、④共同物流型物流センターの4種類が存在する。

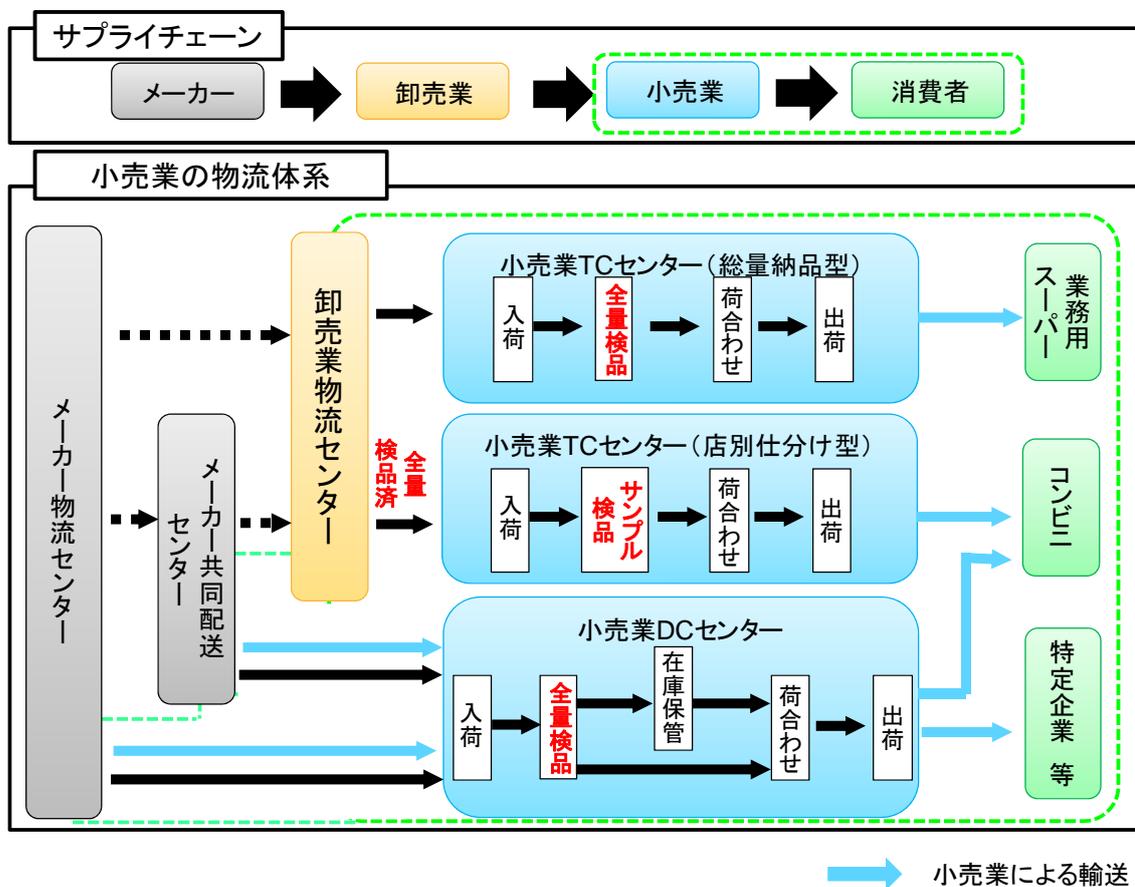
- ①汎用型物流センター : 異なる業態の店舗（ドラッグストア、コンビニ、酒販店等）をエリアごとにカバーし、様々な商品の出荷に対して対応可能な物流センター。
  - ②業態対応型物流センター : スーパーマーケット、コンビニ、業務用など、業態の似たグループ化して対応する物流センター。
  - ③特定企業専用型物流センター : 特定企業の専用の物流センターで、まとまった物量を扱う場合に構築される物流センター。
  - ④共同物流型物流センター : 一括物流を行う物流センターのこと。多店舗展開の小売店が商品を仕入れる際、複数のメーカーの商品を取りまとめて一括して各店舗に輸送する物流センター。
- 小売業TCセンター : Transfer Center。在庫を持たない通過型の物流センターの略。



### (3) 小売業の物流体系

小売業は最終的に店舗まで商品を配送する役割を担う。小売業者は多種多様な商品を物流センターに集約し、各店舗に必要な商品をひとまとめにして一括配送している。小売業の物流センターには、以下の三種類が存在する。

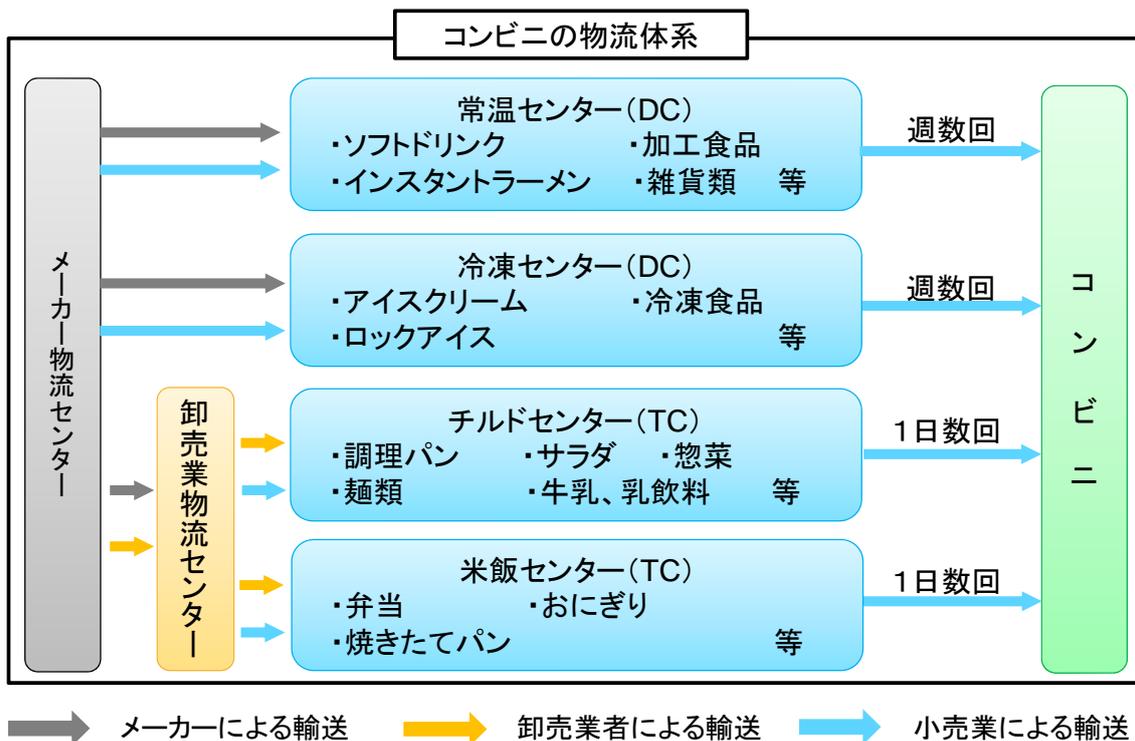
- ①小売業TCセンター（総量納品型）：卸売業物流センターから、検品がなされていない状態で商品が納品されてくるセンター。当該センター内で全量検品を行う必要がある。
- ②小売業TCセンター（店別仕分け型）：卸売物流センターから全量検品が行われたあと、納品されるセンターで、センター内ではサンプル検品しか行わない。
- ③小売業DCセンター：メーカーから卸売業物流センターを介さずに、直接輸送されてくるセンターであり、小売業の物流センター内で在庫保管も行う。



#### (4) コンビニの物流体系

コンビニは1店舗に約3000種ほどの商品を扱っていることや、食品を多く扱うため衛生面への配慮が必要なことから、基本的に毎日配送を実施する。コンビニの物流センターは大きく「常温」、「冷凍」、「チルド」、「米飯」の四種類に分けられる。

- ①常温センター：加工食品、菓子、酒類など、温度管理が不要なものを取り扱うDCセンターで、週数回程度輸送される。
- ②冷凍センター：冷凍食品、アイスクリーム等を取り扱うDCセンター。週数回輸送するケースが一般的である。
- ③チルドセンター：調理パンやサラダ、牛乳等の食品を取り扱うTCセンターで、1日数回程度の輸送が行われる。
- ④米飯センター：弁当、おにぎりなどを扱うTCセンターで、1日数回程度の輸送が行われる。



出典：臼井秀彰（2011）ビジュアル図解 物流センターの仕組み 同文館出版(株)を参照